

# Office365 の セキュリティ強化の ために Swivel を導入

## OBAYASHI



## 11,000 人が利用する 2 要素認証基盤を Swivel で構築

株式会社大林組は、日本を代表するスーパーゼネコンです。東京スカイツリーや虎ノ門ヒルズなど、時代のシンボルとなる建築を数多く手がけ、国内外に幅広く事業を展開しています。多様化する社会のニーズに応え、人々の安全、安心、快適を実現する企業集団を目指しています。

### 全社員が Office365 に移行

大林組では、ICT システムについても常に先進的な取り組みを行っています。Microsoft のクラウドサービスである Office365 を全社的に導入したのは日本企業としては早く、2013 年 4 月のことでした。

株式会社大林組グローバル ICT 推進室副部長 奥田由起憲氏は「ユーザー名とパスワードのみを使う Office365 の認証については、導入当初から社内でもセキュリティを心配する声がありました。そのためセキュリティ強度の高い 2 要素認証ソリューションを導入しよう、という考えは当時からあったのです。」と、当時を振り返ります。しかし、当時は、コストや利便性などの面で条件にあうソリューションが見つかりませんでした。「必要な条件を満たす製品が出てきたら導入しよう、という考え方で、さまざまな製品を探しながら Office365 の運用を行うという状況が続きました。」

### リモートアクセス用の認証基盤も刷新

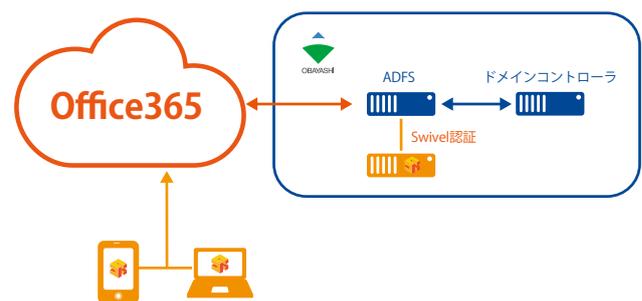
このような状況の中、利用中のリモートアクセスシステムを更新することになりました。そこで、Office365 とリモートアクセスの両方に使えるセキュ

アな認証基盤を導入することになり、検討が始まりました。

それまで使っていたリモートアクセス用の認証基盤は 2 要素認証でしたが、ユーザーが個々に乱数表を印刷して持ち歩かなければならず、乱数表を紛失したり所持していない場合には使えないなど、必ずしも使い勝手が良いものではありませんでした。

### 5 つの選択肢から使いやすく、管理も容易なソリューションを選定

RFP を作成して提案を募ったところ、5 社から提案がありました。「製品の選定に当たっては、Office365 などの他のソリューションとも連携できる柔軟性に加え、エンドユーザーの使い勝手、運用のしやすさ、コストなどを重視しました。スマートフォン用アプリ等を使う製品もありましたが、突然の自然災害等の緊急時、特定の端末を持っていなくても利用できる必要があり、柔軟性の高い Swivel に落ち着きました。」



「Swivel ならば、手元にスマートフォンやパソコンがあれば、乱数表などを使わずに、その場で安全なワンタイムコードを生成してログインすることができます。」

また、緊急時の対応を考慮し、現時点では、他人のデバイスを利用してもログインすることができます。「将来、端末認証といった本格的な 2 要素認証システムへ移行し、運用方法が変更された場合でも、Swivel なら問題なく対応できます。」

#### 株式会社大林組 会社概要

創業	明治 25 年 (1892 年) 1 月
設立	昭和 11 年 (1936 年) 12 月
取締役社長	白石 達
本社	東京都港区港南 2 丁目 15 番 2 号
資本金	577.52 億円
従業員数	8,369 名 (平成 27 年 3 月現在)
事業内容	国内外建設工事・地域開発・都市開発・海洋開発・環境整備・その他建設に関する事業、及びこれらに関するエンジニアリング・マネージメント・コンサルティング業務の受託、不動産事業ほか

## スムーズだった導入作業

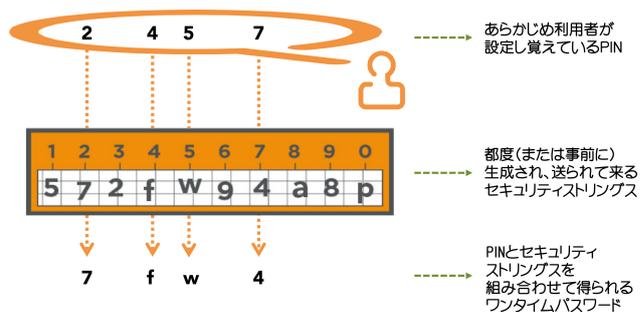
Swivel の採用が決定した後は、社内に試用環境を構築し、3ヶ月ほど運用した後に、既存の Office365 の認証の部分に Swivel を追加する作業を行い、本番環境に移行しました。システム構築を担当した NTT ソフトウェア株式会社が用意した日本語の運用マニュアルも役に立ったとのこと。17,000 人の Office365 ユーザーのうち、社外からのアクセスに Swivel を用いた認証を利用しているユーザーは 11,000 人です。

## 使い方についての周知が鍵

大林組のシステム運用を担当する株式会社オーク情報システム運用サービス第二部イントラネット基盤運用グループ主任小川 雅充氏は「Swivel は、覚えている PIN と表示された文字列をつきあわせてワンタイムコードを生成するという新しい方式のため、導入当初、ユーザーの間には戸惑いも見られました。ピーク時には 1 日 50 件くらいの間合せがありました。」と、運用開始当時を振り返ります。とはいえ、これは最初だけの話で、利用が進んで仕組みが理解された後は、問い合わせが減ったとのこと。

## 今後はユーザーポータルを活用も

Swivel には、ユーザーが自らパスワードのリセット



などを行う事ができるユーザーポータルが用意されています。今後の予定について、NTT ソフトウェアは「大林組様では現在ユーザーポータルを利用されていません。今後はユーザーポータルを積極的に開放し、利用管理の負担を軽減されていく方向に後押ししていきます。」とコメントしています。

## 様々なソリューションとの連携を視野に

Swivel のライセンスはユーザー数単位で決まり、複数のサービスと連携させてもライセンス料は変わりません。大林組でも、将来的には様々なソリューションと連携させ、共通の認証基盤として活用していきたいと考えています。Security Strings としても、様々な適用事例をご提供していく所存です。



(右から)株式会社大林組グローバル ICT 推進室副部長 奥田 由起憲氏、株式会社大林組グローバル ICT 推進室共通基盤整備課 鈴木 悠平氏、株式会社オーク情報システム運用サービス第二部イントラネット基盤運用グループ中谷 朋珠氏、株式会社オーク情報システム運用サービス第二部イントラネット基盤運用グループ主任 小川 雅充氏、株式会社オーク情報システム運用サービス第二部イントラネット基盤運用グループ長 米田 稔彦氏



## セキュリティストリングス株式会社

〒102-0082 東京都千代田区一番町 6 番地 相模屋本社ビル 7F  
Email: sales@securitystrings.com  
URL: <http://www.securitystrings.com>

お問合せ